

## 第4章 6地区・9地区ごとの公共施設を通じた行政サービスの実態

### 1. エリア別実態把握

今後、公共施設の有効活用を図っていくためには、第1・2章で把握した各地区の状況及び特性等に加え、第3章で整理・検証した用途ごとの公共施設の実態や今後の検討の視点を踏まえ、各地区ごとの公共施設の配置状況や整備状況等を整理し、課題を把握・整理することで、市全般にわたる総合的な施設の整備運営に対する方向性等を検討する必要があります。

第4章では、6地区及び9地区ごとに、それぞれの地区の人口構造の変化、公共施設の配置及び整備状況等に加え、各施設の老朽化状況及び利用状況等を整理し、さらに地区ごとのトータルコストも把握します。それらを基に各地区の課題を抽出・整理し、さらに総合的視点から公共施設の整備・運営について今後の方向性を明らかにして、今後の地区ごとのまちづくりと連動した施設の最適化につなげていきます。

図表 地区ごとの実態把握



# 豊岡地区

	合計	第一	第二	第三
面積 (km <sup>2</sup> )	7.68	2.3	2.94	2.44
人口 (人)	55,481	17,737	20,077	17,667
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	7,224	7,712	6,829	7,241

	合計	第一	第二	第三
延床面積 (m <sup>2</sup> )	142,373	21,241	93,706	27,426
1人当りの保有量 (m <sup>2</sup> /人)	2.57	1.20	4.67	1.55

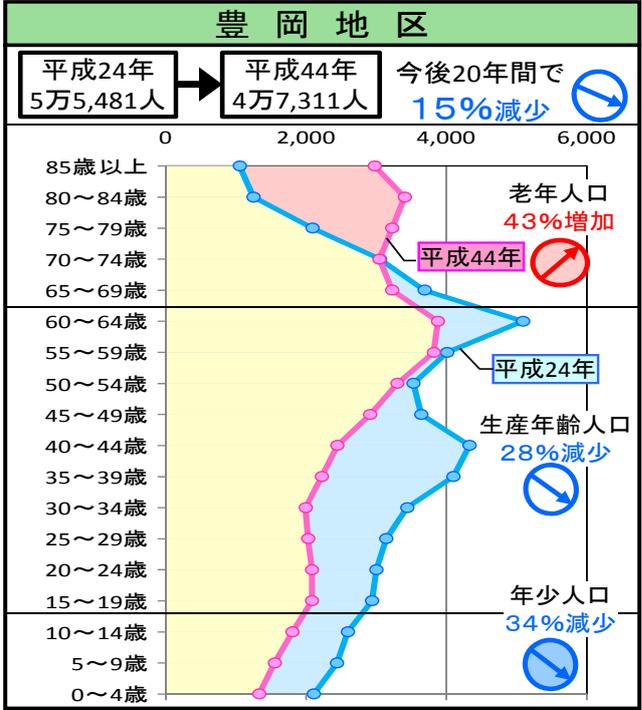
## ① 概要 (土地利用・交通など)

入間市駅から扇町屋2丁目にかけて、デパートや、映画館・レジャー施設等の入った複合ビルなどが立ち並ぶ中心商業地となっています。

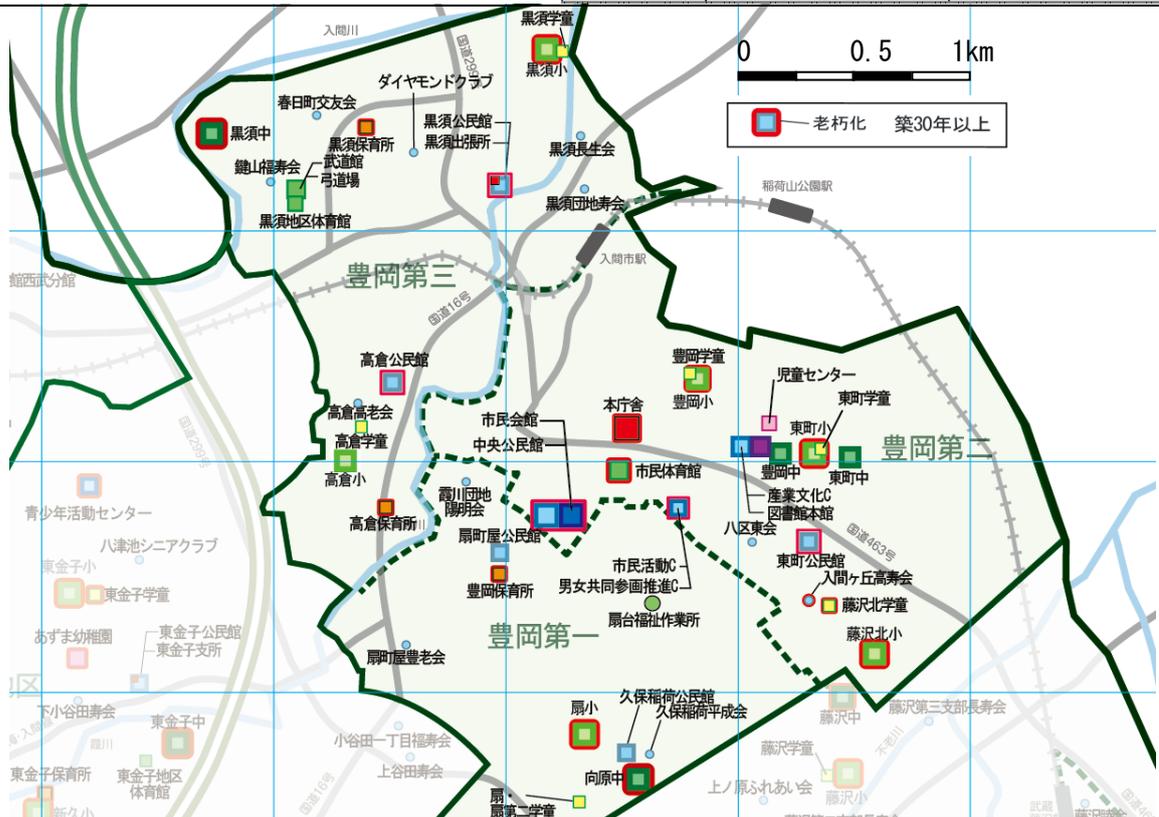
昭和53年以降、基地跡地に小・中学校、高校、図書館、産業文化センター、公団や県営住宅、県営公園などが整備され、近接している市役所、市民会館などとともに、市の公共的な中心地を形成しています。

## ② 人口 (現状と将来の変化と特徴)

豊岡地区は、今後20年間で人口が約15%減少する予測となっています。人口構成別にみると高齢者は43%増加し、市内で1番目に高齢者人口が多い地区となります。年少人口に関しては、34%の減少予測となっており、割合では市内で2番目に大きい減少率になり、人数に換算すると約2,000人減少し、これは学校約3校分に相当します。



	平成24年 (比率)	平成44年 (比率)
高齢者人口	11,128人 (20%)	15,874人 (34%)
生産年齢人口	37,215人 (67%)	26,754人 (57%)
年少人口	7,138人 (13%)	4,683人 (10%)



凡例：■築20年以上経過した施設 ■築30年以上経過した施設 ■築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	利用状況		コスト状況 トータルコスト(万円)	パフォーマンス把握指標			
						稼働率	利用者数(人)		利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数	
広域	障害者福祉施設	1 扇台福祉作業所	1993	平成5年	21	452		3,425				
地区	公民館	1 扇町屋公民館	1985	昭和60年	29	986	40%	41,225	3,685	894	138	4.6回
		2 久保稲荷公民館	1991	平成3年	23	1,126	33%	45,066	4,426	982	151	5.1回
	老人憩いの家	1 霞川団地陽明会老人憩いの家	1984	昭和59年	30	75		1,185	3	25	3	0.2回
		2 久保稲荷平成会老人憩いの家	1991	平成3年	23	85		3,970	188	474	11	0.7回
	3 扇町屋豊老会老人憩いの家	1992	平成4年	22	85		3,739	144	385	10	0.6回	
学童保育室	1 扇学童保育室	1989	平成元年	25	121	67%	40	865	216,250			
	2 扇第二学童保育室	1989	平成元年	25	98	64%	32	840	262,500			

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数生徒数(人)	学級数 通常学級	コスト状況		パフォーマンス把握指標		
								トータルコスト(万円)	入園率	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数
地区	小学校	1 扇小学校	1974	昭和49年	40	6,920	826	26				
	中学校	1 向原中学校	1977	昭和52年	37	6,191	530	15				

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況		パフォーマンス把握指標			
									トータルコスト(万円)	入園率	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数	
地区	保育所	1 豊岡保育所	1971	昭和46年	43	651	144	150	96%	13,542	940,417			

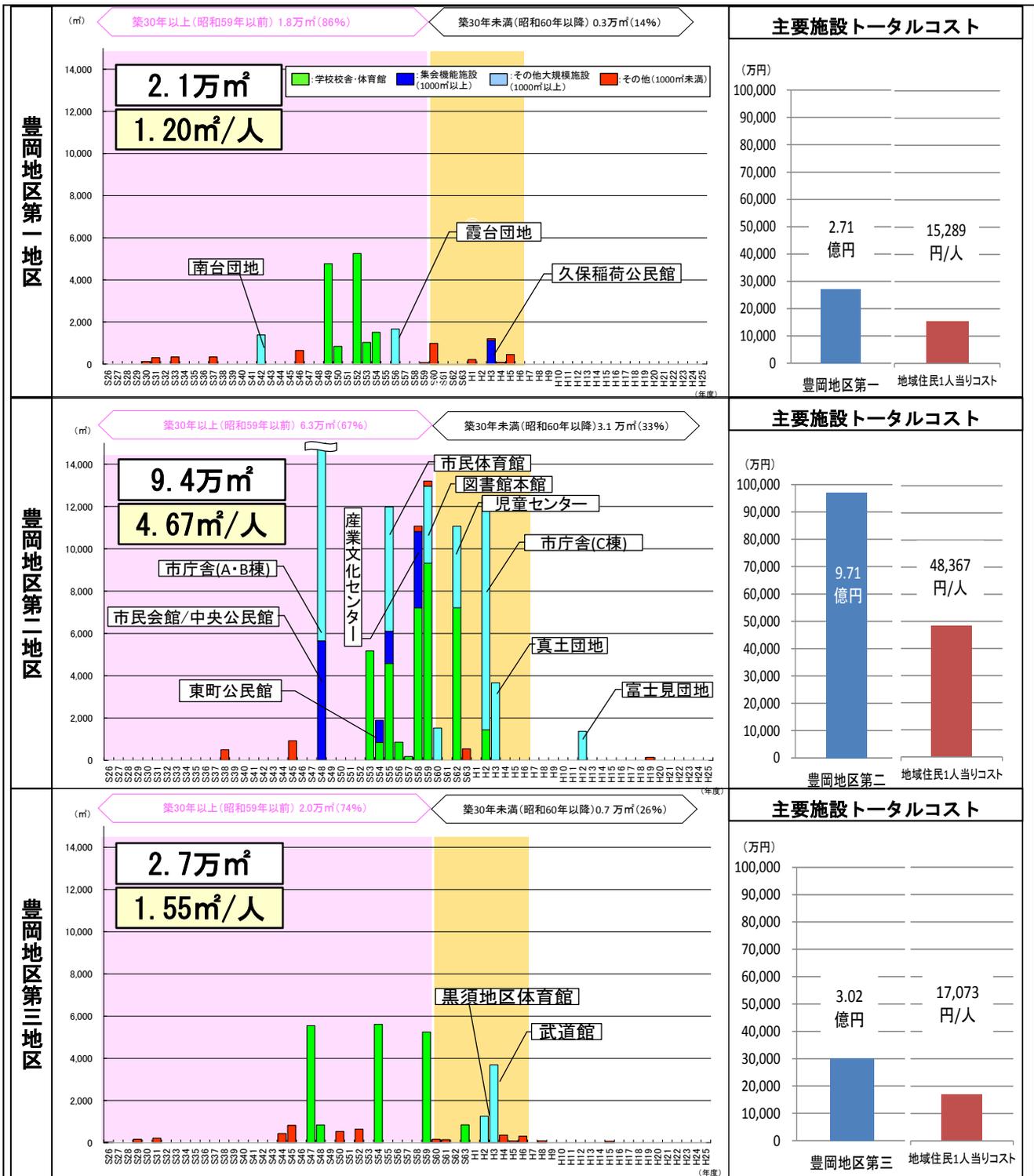
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数生徒数(人)	学級数 通常学級	コスト状況		パフォーマンス把握指標		
								トータルコスト(万円)	入園率	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数
地区	小学校	豊岡小学校	昭和58年	31	7,235	511	18					
		東町小学校	昭和55年	34	7,220	483	17					
		藤沢北小学校	昭和53年	36	5,796	681	22					
地区	中学校	豊岡中学校	昭和59年	30	9,321	416	13					
		東町中学校	昭和62年	27	7,217	232	8					

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数生徒数(人)	学級数 通常学級	コスト状況		パフォーマンス把握指標		
								トータルコスト(万円)	入園率	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数
地区	小学校	黒須小学校	昭和47年	42	6,253	442	15					
		高倉小学校	昭和59年	30	5,961	357	14					
地区	中学校	黒須中学校	昭和54年	35	5,683	277	9					

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況		パフォーマンス把握指標		
									トータルコスト(万円)	入園率	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数
地区	保育所	高倉保育所	昭和50年	39	531	55	90	61%	9,275	1,686,364			
		黒須保育所	昭和44年	45	439	91	90	101%	9,371	1,029,780			



■現状と課題

＜人口動向変化からの課題＞

市内でも高齢者人口の増加と、年少人口の減少数が多く、両方の課題への対応が求められます。

今後は人口構成の変化による利用ニーズを詳細に把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

＜施設配置状況、保有機能＞

豊岡地区の中でも、第二地区では、市役所が整備され市の広域対応の施設が集中しています。

その他2地区では学校を中心に整備されていますが、いずれも築30年以上が経過しており、老朽化が進行しています。

＜施設保全からの課題＞

第二地区には、市の行政サービスの中心機能が集積しており、今後10年ですべて老朽化の時期をむかえ、トータルコストも高く、より費用を抑えた効率的な施設整備を行うとともに、災害時における拠点としてより強化した整備が求められます。



## 東金子地区

	合計		合計
面積 (km <sup>2</sup> )	5.64	延床面積 (m <sup>2</sup> )	45,985
人口 (人)	17,303	1人当りの 保有量 (m <sup>2</sup> /人)	2.66
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	3,068		

### ① 概要 (土地利用・交通など)

地区南部にはしる圏央道の南には昭和40年代に造成された武蔵工業団地が立地しており、また、地区内を国道299号と16号が縦断しています。鉄道駅はありません。

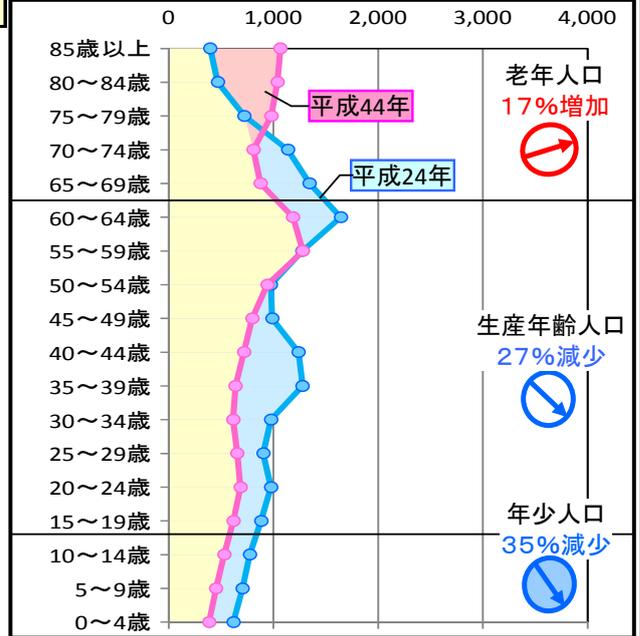
南西部は農地(茶畑等)が広がっています。

### ② 人口 (現状と将来の変化と特徴)

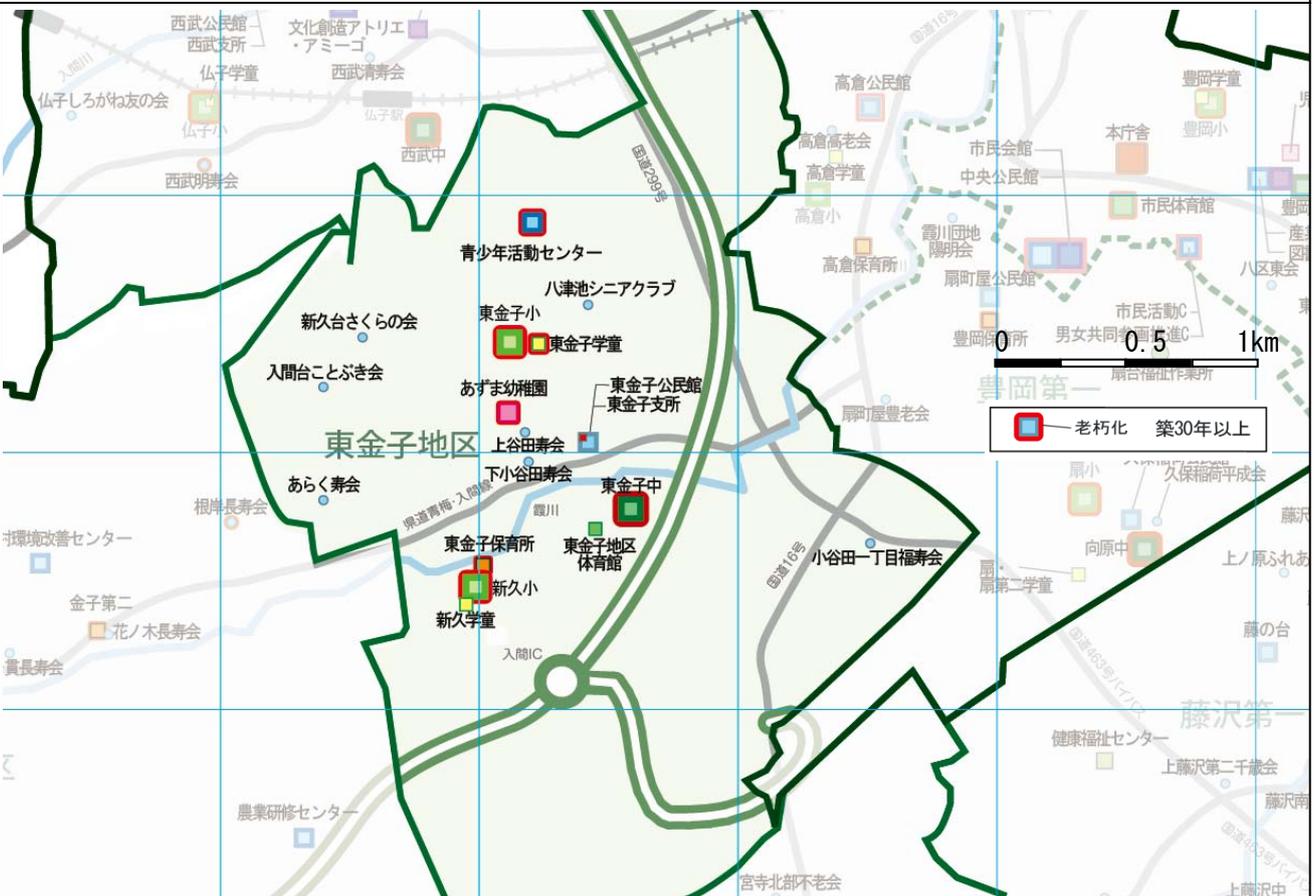
昭和40年代に市街化区域である八津池・入間台等の住宅団地が造成されましたが、以降主な住宅開発はなく、20年前より地区人口が市内で初めて微減傾向へ転じました。人口構成では、高齢化率が24%と市内で最も高い地区です。今後20年間では、75歳以下の人口がすべて減少し、後期高齢者が高齢者人口の約65%を占めます。

## 東金子地区

平成24年 1万7,303人 → 平成44年 1万4,271人 今後20年間で 18%減少



	平成24年 (比率)	平成44年 (比率)
高齢者人口	4,072人 (24%)	4,769人 (33%)
生産年齢人口	11,134人 (64%)	8,134人 (57%)
年少人口	2,097人 (12%)	1,368人 (10%)

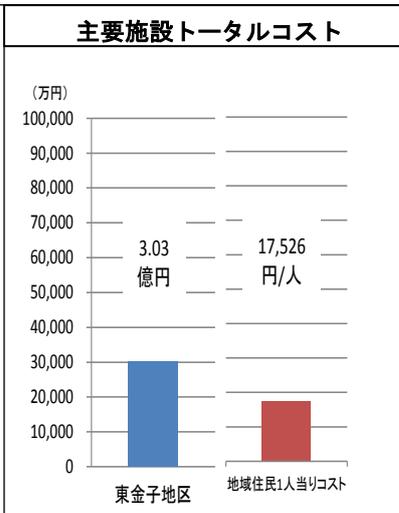
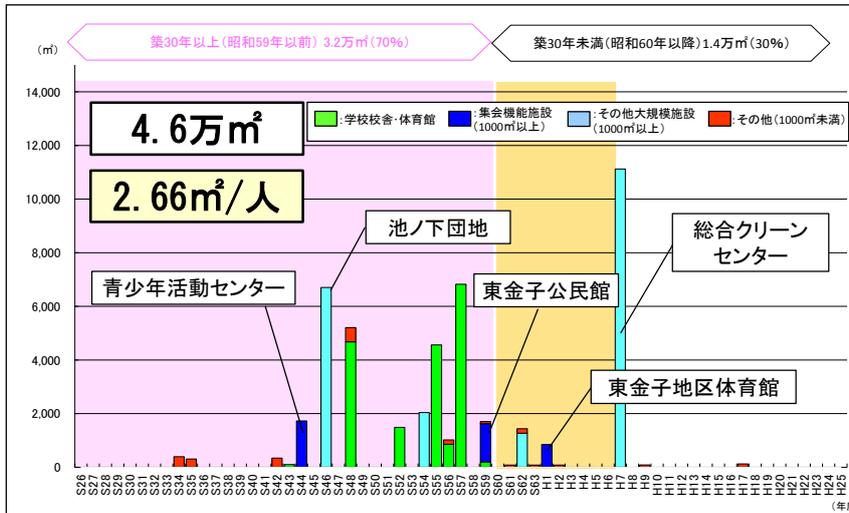


凡例：■築20年以上経過した施設 ■築30年以上経過した施設 ■築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	利用状況		コスト状況		パフォーマンス把握指標	
						稼働率	利用者数(人)	トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数
広域	その他広域対応集会所施設	青少年活動センター	昭和44年	45	2,580		24,261	6,977	2,876	68	0.2回
地区	庁舎等(行政窓口)	東金子支所	昭和59年	30	65						
	屋内スポーツ施設	東金子地区体育館	昭和62年	27	1,273		25,079	1,881	750	70	2.9回
	公民館	東金子公民館	昭和59年	30	1,356	31%	36,763	4,416	1,201	123	4.2回
	老人憩いの家	あらく寿会老人憩いの家	昭和59年	28	77		279	12	430	1	0.0回
		下小谷田寿会老人憩いの家	昭和61年	27	83		534	36	674	2	0.1回
		八津池シニアクラブ老人憩いの家	昭和62年	27	83		3,126	31	99	9	0.4回
		入間台ことぶき会老人憩いの家	昭和62年	26	83		2,566	5	19	7	0.3回
		上小谷田寿会老人憩いの家	昭和63年	26	83		1,080	15	139	3	0.1回
		新久台さくらの会老人憩いの家	平成2年	24	82		1,470	7	48	4	0.2回
	学童保育室	東金子学童保育室	昭和56年	33	166	63%	44	907	206,136		
新久学童保育室		平成17年	9	123	73%	44	776	176,364			

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数生徒数(人)	学級数
							通常学級
地区	小学校	東金子小学校	昭和43年	46	6,157	344	14
		新久小学校	昭和55年	34	5,912	306	12
地区	中学校	東金子中学校	昭和57年	32	6,825	341	11

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況	
									トータルコスト(万円)	園児1人当たりコスト(円/人)
地区	保育所	東金子保育所	昭和48年	41	530	84	90	93%	10,466	1,245,952
地区	幼稚園	あずま幼稚園	昭和42年	47	342	73	120	61%	4,647	636,575



■現状と課題

**<人口動向変化からの課題>**  
 他の地区より高齢化が早かったため今後20年で、高齢者人口のうち後期高齢者の割合が65%（全体割合は22%）を占めます。今後は、人口構成の変化による地区住民の新たな利用ニーズを詳細に把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

**<施設配置状況、保有機能>**  
 東金子地区では、市の広域集会所施設が1施設あります。また平成7年に総合クリーンセンターとリサイクルプラザ（延床面積11,123㎡）が整備されました。  
 他の地区と同様に学校を中心に整備されており、いずれも築30年以上を経過しており老朽化が進行しています。

**<施設保全からの課題>**  
 地区内の大規模な施設は学校施設ですが、いずれも築30年以上を経過しており、大規模改修又は建替えの検討が必要です。また、年少人口は今後20年で約700人の減少予測であり、学校の更新のタイミングに合わせ、学校スペースの有効活用を図ると共に、より費用を抑えた効率的な施設整備手法や周辺施設との集約化・複合化等を検討することが必要です。

# 金子地区

	合計		合計
面積 (km <sup>2</sup> )	12.26	延床面積 (m <sup>2</sup> )	18,270
人口 (人)	10,337	1人当りの 保有量 (m <sup>2</sup> /人)	1.77
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	843		

## ① 概要 (土地利用・交通など)

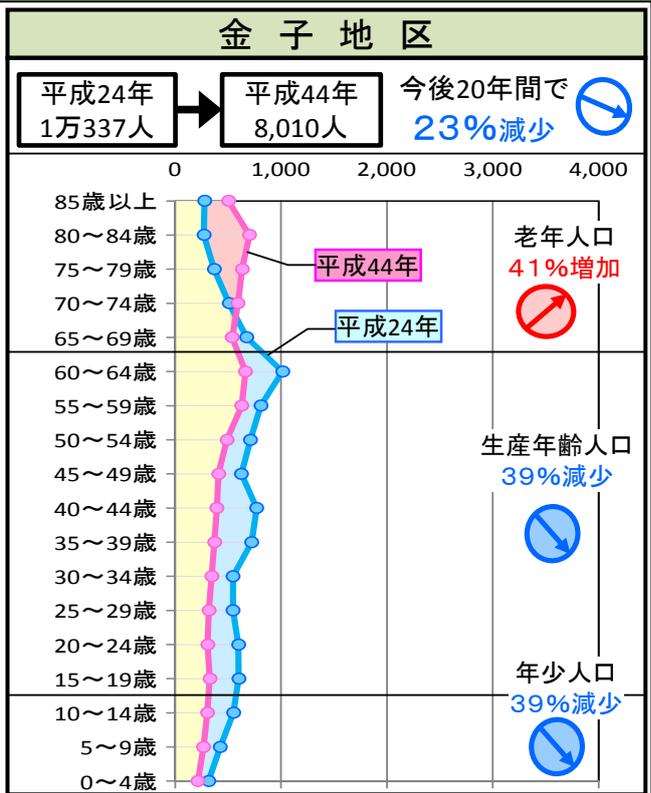
金子地区は6地区の中で面積が最も広く、人口は最も少なくなっています。地区の南部、金子台(武蔵野台地)には関東一の面積を誇る茶畑が広がり、その一角には、埼玉県農林総合研究センター茶業研究所もあり、東金子地区とともに狭山茶生産の中心となっています。

地区の北部に位置する加治丘陵には、ハイキングコースなども整備され、市民のレクリエーションの場となっています。

## ② 人口 (現状と将来の変化と特徴)

20年前から現在までの約6%微増から今後20年間では減少に転じ、減少率が約23%となっています。

人口構成では高齢化率が37%と市内で最も高い地域と予測され、また生産年齢人口は、市内で最も減少(39%)する予測となっています。



	平成24年	(比率)	平成44年	(比率)
高齢者人口	2,103人	(20%)	2,971人	(37%)
生産年齢人口	6,941人	(67%)	4,253人	(53%)
年少人口	1,293人	(13%)	786人	(10%)

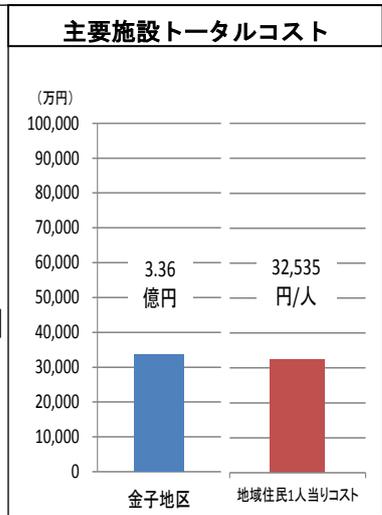
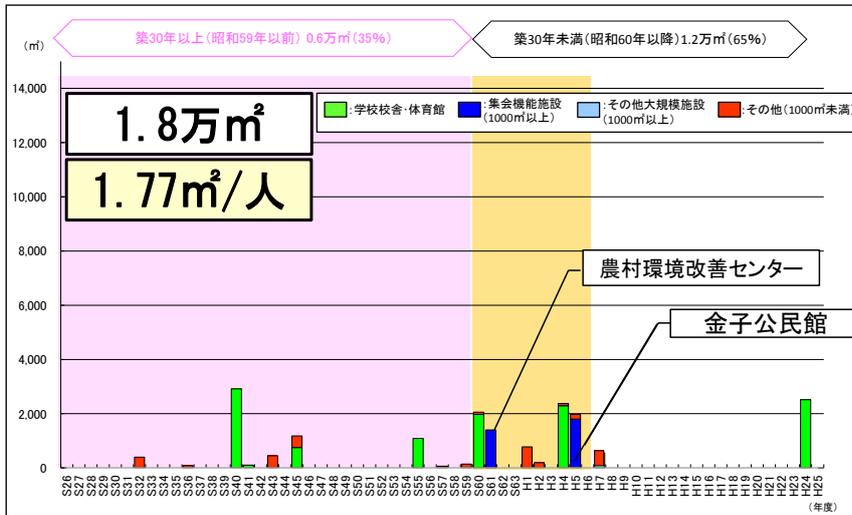


凡例：■築20年以上経過した施設 ■築30年以上経過した施設 ■築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	利用状況		コスト状況		パフォーマンス把握指標	
						稼働率	利用者数(人)	トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数
広域	保養系施設	農村環境改善センター	昭和61年	28	1,402	21%	34,292	4,162	1,214	96	0.5回
		農業研修センター	平成7年	19	550			800			
地区	庁舎等(行政窓口)	金子支所	平成5年	21	94						
	図書館	図書館金子分館	平成5年	21	308		21,059	2,800	1,330	71	4.1回
	公民館	金子公民館	平成5年	21	1,401	32%	38,417	4,760	1,239	128	7.4回
	老人憩いの家	根岸長寿会老人憩いの家	昭和57年	32	66		820	37	451	2	0.2回
		花ノ木長寿会老人憩いの家	昭和59年	30	69		960	17	177	3	0.2回
		下谷ヶ貫長寿会老人憩いの家	昭和59年	30	72		2,302	12	52	6	0.4回
		南峯長寿会老人憩いの家	昭和60年	29	83		2,111	40	189	6	0.4回
		上谷ヶ貫長寿会老人憩いの家	平成2年	24	83		1,676	3	18	5	0.3回
		西三ツ木長寿会老人憩いの家	平成4年	22	85		2,203	162	735	6	0.4回
		木蓮寺長寿会老人憩いの家	平成5年	21	86		777	150	1,931	2	0.2回
寺竹長寿会老人憩いの家	平成5年	21	84		1,408	175	1,243	4	0.3回		
児童保育室	金子児童保育室	平成2年	24	109	86%	43	1,606	373,488			

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数生徒数(人)	学級数
							通常学級
地区	小学校	金子小学校	昭和40年	49	4,944	482	17
	中学校	金子中学校	昭和60年	29	6,816	276	9

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況	
									トータルコスト(万円)	園児1人当たりコスト(円/人)
地区	保育所	金子第一保育所	昭和43年	46	449	79	120	66%	10,446	1,322,278
		金子第二保育所	昭和45年	44	426	59	84	70%	8,461	1,434,068



■現状と課題

<人口動向変化からの課題>

市内でも人口減少率が最も高く、高齢者人口割合が最も高い地区となります。また今後20年間で70歳以下の人口がすべて減少することへの対応も求められます。

今後は人口構成の変化による利用ニーズを詳細に把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

<施設配置状況、保有機能>

市で保有する施設の延床面積が、最も少ない地区です。学校以外の大規模施設の農村環境改善センターと金子公民館は、いずれも稼働率が15%、32%と低く、機能の重複が考えられます。また今後10年間の内に地区内のほとんどの施設が老朽化の時期をむかえます。

<施設保全からの課題>

地区内の施設のうち、大規模な施設は、学校施設と保育所ですが、4施設のうち3施設が築40年を超えており、より費用を抑えた効率的な施設整備手法や周辺施設との集約化・複合化等を検討することが必要です。また公民館や老人憩いの家、農村環境改善センター及び、他地区も含めた施設数と機能とのバランスを考慮した整備が必要です。

## 宮寺・二本木地区

	合計		合計
面積 (km <sup>2</sup> )	8.94	延床面積 (m <sup>2</sup> )	30,323
人口 (人)	11,250	1人当りの保有量 (m <sup>2</sup> /人)	2.70
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	1,258		

### ① 概要 (土地利用・交通など)

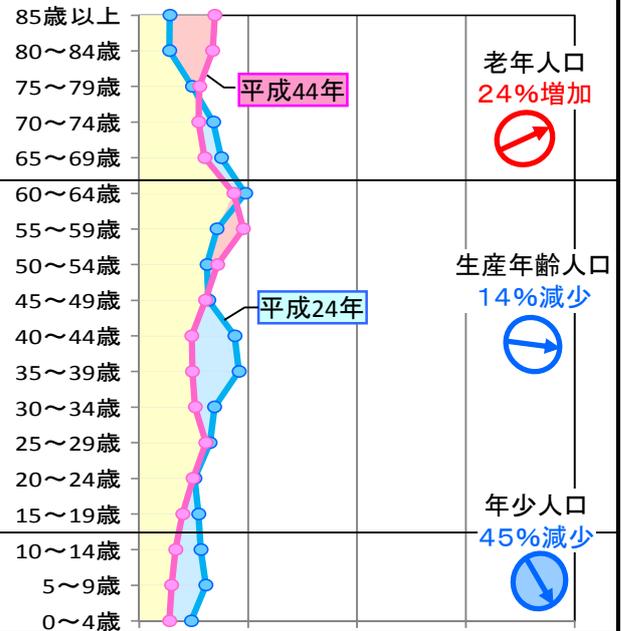
南部には狭山丘陵が広がり、今でも集落や雑木林、農地などがのどかな風景を作り出しており、さいたま緑の森博物館も整備されています。この森はアニメ映画「となりのトトロ」の舞台となりました。

北部の狭山台地区には、工業団地や住宅地が整備されており、大学や高校などがある文教地区となっています。

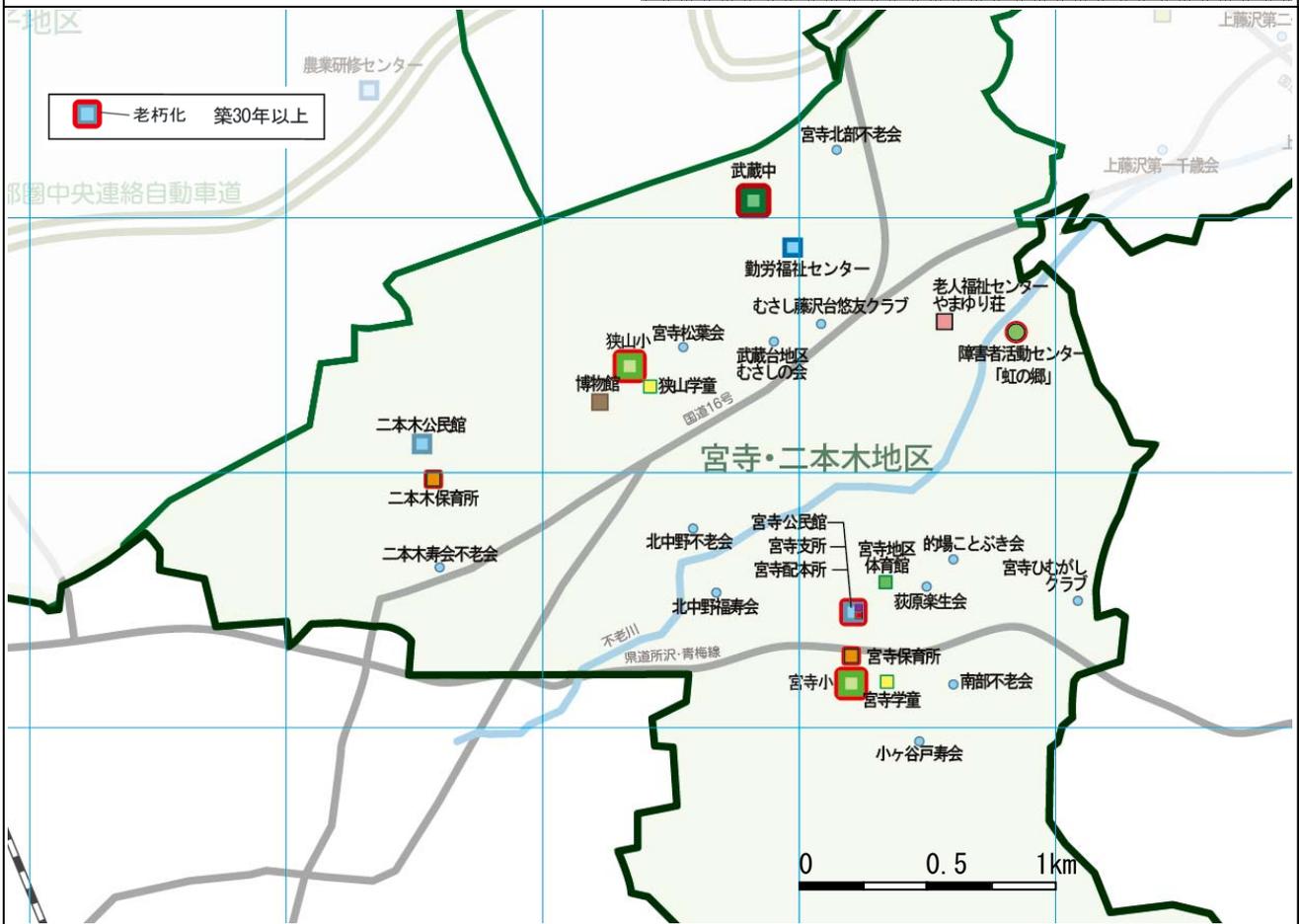
### ② 人口 (現状と将来の変化と特徴)

同地区の面積は市内で2番目に大きく、人口は5番目となっています。20年前から約10%人口が増加しており、今後20年間の人口の減少率は約10%と、減少率は3番目に低いものとなっています。

## 宮寺・二本木地区



	平成24年 (比率)	平成44年 (比率)
高齢者人口	2,475人 (22%)	3,063人 (30%)
生産年齢人口	7,125人 (63%)	6,125人 (61%)
年少人口	1,650人 (15%)	904人 (9%)

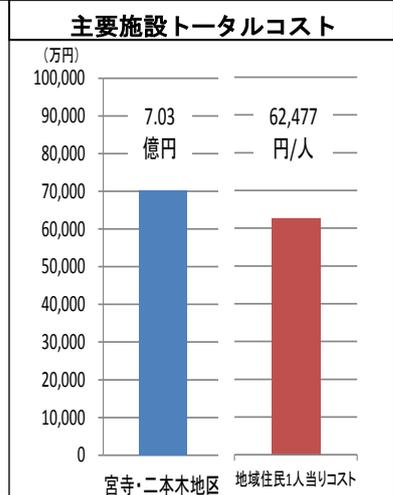
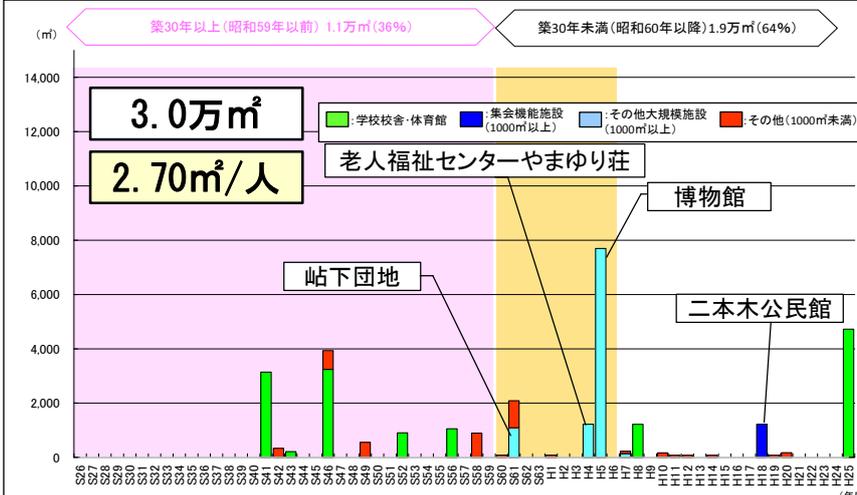


凡例：■築20年以上経過した施設 ■築30年以上経過した施設 ■築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	利用状況		コスト状況 トータルコスト(万円)	パフォーマンス把握指標			
						稼働率	利用者数(人)		利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数	
広域	博物館	博物館	平成5年	21	6,245	45%	55,558	29,229	5,261	186	0.7回	
	産業系施設	勤労福祉センター	昭和61年	28	748	29%	18,085	1,232	681	51	0.2回	
	障害者福祉施設	障害者活動センター「虹の郷」	昭和46年	43	690			678				
地区	老人福祉センター	老人福祉センターやまゆり荘	平成5年	21	1,589		51,673	7,744	1,499	174	0.7回	
	庁舎等(行政窓口)	宮寺支所	昭和58年	31	50							
	図書館	宮寺配本所	昭和58年	31	58		249	0	0	2	0.0回	
	屋内スポーツ施設	宮寺地区体育館	平成4年	22	1,224		28,723	1,831	637	80	5.1回	
	公民館	宮寺公民館	昭和58年	31	790	22%	16,801	3,629	2,160	56	3.0回	
	老人憩いの家	二本木公民館	二本木公民館	平成18年	8	1,217	33%	24,374	3,857	1,583	82	4.3回
		宮寺松葉会老人憩いの家	宮寺松葉会老人憩いの家	昭和60年	29	83		2,242	23	103	6	0.4回
		宮寺北部不老会老人憩いの家	宮寺北部不老会老人憩いの家	昭和61年	28	83		1,110	7	63	3	0.2回
		二本木寿会不老会老人憩いの家	二本木寿会不老会老人憩いの家	昭和61年	28	83		851	9	106	2	0.2回
		小ヶ谷戸寿会老人憩いの家	小ヶ谷戸寿会老人憩いの家	昭和61年	28	83		1,177	20	170	3	0.2回
		南部不老会老人憩いの家	南部不老会老人憩いの家	昭和62年	27	83		1,695	10	59	5	0.3回
		北中野不老会老人憩いの家	北中野不老会老人憩いの家	平成元年	25	83		558	21	376	2	0.1回
		宮寺むしがしクラブ老人憩いの家	宮寺むしがしクラブ老人憩いの家	平成7年	19	86		1,428	176	1,232	4	0.3回
		的場ことぶき会老人憩いの家	的場ことぶき会老人憩いの家	平成10年	16	86		2,104	168	798	6	0.4回
		武蔵台地区むさしの会老人憩いの家	武蔵台地区むさしの会老人憩いの家	平成10年	16	84		2,579	143	554	7	0.5回
		荻原生会老人憩いの家	荻原生会老人憩いの家	平成11年	15	79		908	189	2,081	3	0.2回
		北中野福寿会老人憩いの家	北中野福寿会老人憩いの家	平成14年	12	80		2,155	140	650	6	0.4回
	むさし藤沢台睦友クラブ老人憩いの家	むさし藤沢台睦友クラブ老人憩いの家	平成18年	7	77		1,835	130	708	5	0.3回	
	児童保育室	狭山児童保育室	狭山児童保育室	平成20年	6	173	84%	59	1,279	216,780		
宮寺児童保育室		宮寺児童保育室	昭和43年	14	79	106%	37	934	252,432			

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数生徒数(人)	学級数	
							通常学級	
地区	小学校	宮寺小学校	昭和41年	48	4,150	238	10	
		狭山小学校	昭和46年	43	4,802	489	17	
	中学校	武蔵中学校	平成25年	1	5,568	343	10	

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況	
									トータルコスト(万円)	園児1人当たりコスト(円/人)
地区	保育所	宮寺保育所	昭和49年	40	554	78	120	65%	10,030	1,285,897
		二本木保育所	昭和42年	47	332	52	60	87%	8,808	1,693,846



<人口動向変化からの課題>

市内でも年少人口の減少率が45%(約750人)と最も高く、構成割合は9%となります。実質人数は、904人と予測されています。

今後は人口構成の変化による利用ニーズを詳細に把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

<施設配置状況、保有機能>

地区内には広域対応施設の博物館(6,245m<sup>2</sup>)が整備されています。その他にも、老人憩いの家が12施設地区内にきめ細かく整備されています。

主要施設のトータルコストが、市内で3番目に高くなっています。

<施設保全からの課題>

広域集会施設である博物館と勤労福祉センター、老人福祉センターやまゆり荘は今後10年間で老朽化の時期をむかえます。学校施設は、3校すべてが築40年を経過しており、より費用を抑えた施設整備手法や統廃合を含めた検討をする必要があります。

また博物館は、市内でも災害時の拠点施設に指定されており重要な施設です。今後は、計画的な整備方針の策定が必要です。

■現状と課題

# 藤沢地区

	合計	第一	第二
面積 (km <sup>2</sup> )	5.25	4.3	0.95
人口 (人)	34,654	26,103	8,551
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	6,601	6,070	9,001

	合計	第一	第二
延床面積 (m <sup>2</sup> )	50,175	41,195	8,980
1人当りの保有量 (m <sup>2</sup> /人)	1.45	1.58	1.05

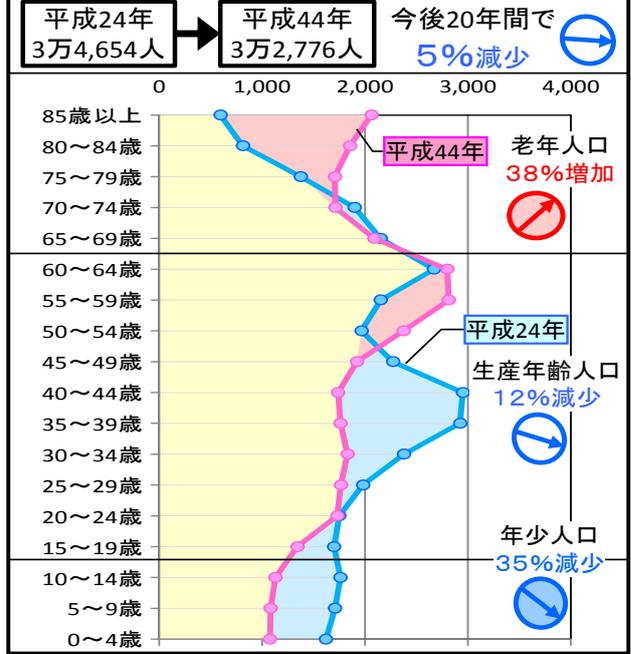
## ① 概要 (土地利用・交通など)

人口は豊岡地区の次に多い地区となっています。昭和30年代以降の大規模宅地開発などや、都心への通勤通学の利便性の良さによる近年の大型集合住宅や大規模店舗の建設により、人口が急増した地区です。大規模な区画整理事業が行われていましたが、まもなく終了することとなっています。

## ② 人口 (現状と将来の変化と特徴)

20年前から約13%人口が増加していましたが、今後20年間では減少(-5%)に転じます。市内の他の地区と比べ生産年齢人口と年少人口の減少率が比較的緩やかとなっており、高齢化率も6地区の中で最も低い約29%と予測されています。しかし、高齢化率は今後20年間で約38%増加(約2,600人)となっており、実質の増加人数は、市内でも豊岡地区に次いで多くなっています。

## 藤沢地区



	平成24年	(比率)	平成44年	(比率)
高齢者人口	6,829人	(20%)	9,421人	(29%)
生産年齢人口	22,738人	(66%)	20,070人	(61%)
年少人口	5,087人	(15%)	3,285人	(10%)



凡例：■築20年以上経過した施設 ■築30年以上経過した施設 ■築40年以上経過した施設

利用 圏域	施設	施設名称	建築 年度 (年度)	築年数 (年)	延床 面積 (㎡)	利用状況		コスト状 況 トータル コスト (万円)	パフォーマンス把握指標		
						稼働率	利用者数 (人)		利用者1人 当たり コスト (円/人)	1日当たり利 用者 (人/日)	地区住民 (市民)1人 当たりの利 用回数
広域	保健施設	健康福祉センター	平成14年	12	7,956			154,132			
地区	庁舎等(行政窓口)	藤沢支所	平成12年	14	178						
	図書館	図書館藤沢分館	平成12年	14	836		76,578	4,575	597	258	5.9回
	屋内スポーツ施設	藤沢地区体育館	昭和61年	28	1,276		48,002	1,939	404	134	3.7回
	公民館	藤沢公民館	平成12年	14	2,083	50%	77,659	5,505	709	260	6.0回
		藤の台公民館	昭和61年	28	728	27%	25,706	3,409	1,326	86	2.0回
	老人憩いの家	藤沢第二支部長寿会老人憩いの家	平成9年	17	96		2,299	160	696	6	0.2回
		上藤沢第一千歳会老人憩いの家	昭和59年	30	80		1,097	27	246	3	0.1回
		上藤沢第二千歳会老人憩いの家	昭和63年	27	82		512	56	1,094	1	0.0回
		藤沢第三支部長寿会老人憩いの家	平成元年	25	82		1,627	56	344	5	0.1回
		上ノ原ふれあい会老人憩いの家	平成12年	14	83		2,559	172	672	7	0.2回
学童保育室	藤沢南学童保育室	平成3年	23	112	150%	60	1,027	171,167			
	藤沢学童保育室	平成5年	21	108	128%	51	1,128	221,176			

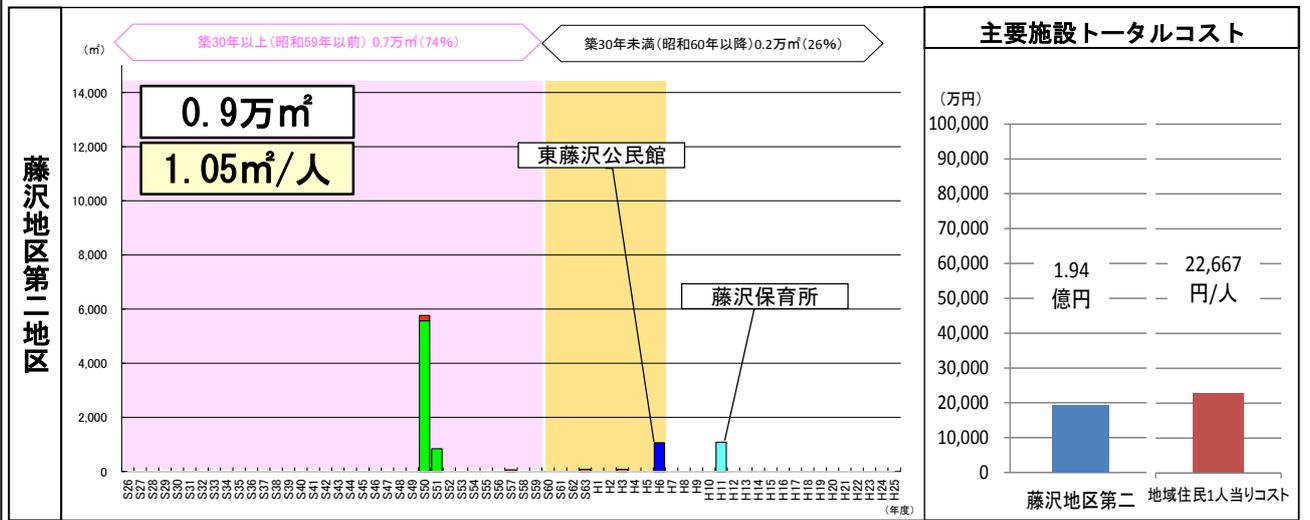
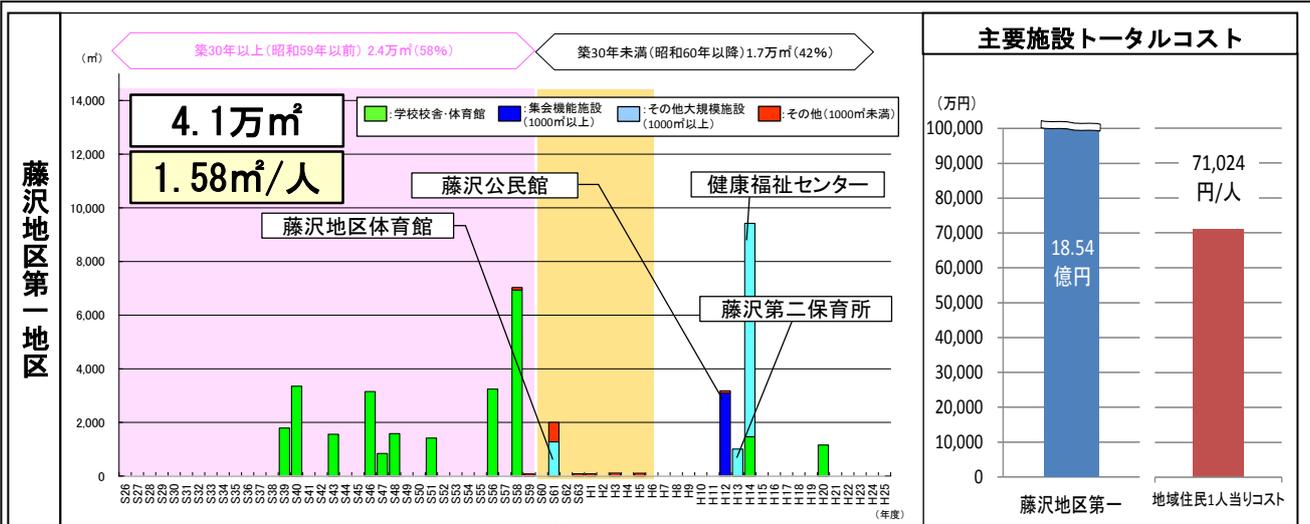
利用 圏域	施設	施設名称	建築 年度 (年度)	築年数 (年)	延床 面積 (㎡)	児童数 生徒数 (人)	学級数	
							通常学級	
地区	小学校	藤沢小学校	昭和40年	49	6,546	523	19	
		藤沢南小学校	昭和46年	43	5,890	509	17	
	中学校	藤沢中学校	昭和39年	50	6,890	586	18	
		上藤沢中学校	昭和58年	31	6,937	434	12	

利用 圏域	施設	施設名称	建築 年度 (年度)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	児童数 (人)	定員 (人)	入園率	コスト状況	
									トータル コスト (万円)	園児1人 当たり コスト (円/人)
地区	保育所	藤沢第二保育所	平成13年	13	1,007	133	120	111%	13,207	993,008

利用 圏域	施設	施設名称	建築 年度 (年度)	築年数 (年)	延床 面積 (㎡)	利用状況		コスト状 況 トータル コスト (万円)	パフォーマンス把握指標		
						稼働率	利用者数 (人)		利用者1人 当たり コスト (円/人)	1日当たり利 用者 (人/日)	地区住民 (市民)1人 当たりの利 用回数
地区	庁舎等(行政窓口)	東藤沢出張所	平成6年	19	東藤沢公民館に含まれる						
	公民館	東藤沢公民館	平成6年	20	1,064	35%	61,341	4,094	667	205	14.3回
	老人憩いの家	角栄東部長生会老人憩いの家	昭和63年	26	83		2,541	3	12	7	0.6回
		藤沢睦会老人憩いの家	平成3年	23	82		2,609	181	694	7	0.6回
	学童保育室	藤沢東学童保育室	昭和50年	21	199	101%	71	1,024	144,225		

利用 圏域	施設	施設名称	建築 年度 (年度)	築年数 (年)	延床 面積 (㎡)	児童数 生徒数 (人)	学級数	
							通常学級	
地区	小学校	藤沢東小学校	昭和50年	39	6,531	694	21	

利用 圏域	施設	施設名称	建築 年度 (年度)	築年数 (年)	延床面積 (㎡)	児童数 (人)	定員 (人)	入園率	コスト状況	
									トータル コスト (万円)	園児1人 当たり コスト (円/人)
地区	保育所	藤沢保育所	平成11年	15	1,081	134	120	112%	14,070	1,050,000



■ 現状と課題

＜人口動向変化からの課題＞

藤沢地区は、高齢者人口は約38%の増加予測となっており、高齢者人口が市内で2番目に多くそのうちの60%（約5,600人）が後期高齢者となっています。

地区内3校の小学校では直近10年間（H16～H26）で、藤沢南小は156人増加、藤沢東小は42人増加。一方、藤沢小は164人減少と同地区内の増減に大きな差が生じています。

＜施設配置状況、保有機能＞

豊岡地区の次に施設面積が多く、主なものは広域集会施設と学校施設となります。幼稚園や小、中学校7施設全てが築30年以上経過しており、老朽化が進行しています。

主な広域対応施設は、健康福祉センターの1施設で、その他の施設は地区対応施設となっており、地区の特性や将来の需要予想を見据えての施設の有効活用を視野に入れた検討が必要です。

＜施設保全からの課題＞

地区内の学校施設のすべてが老朽化しており、藤沢地区体育館が築30年近くとなり、学校と合わせて早急な対応が求められます。

今後は、施設の老朽化の対応と共に変化の大きい学校ごとの児童生徒数のバランスを考慮した整備方針が必要です。

第一地区は、トータルコストが市で最も高いことから、より費用を抑えた効率的な施設整備手法や周辺施設との集約化・複合化等も合わせて検討することが必要です。



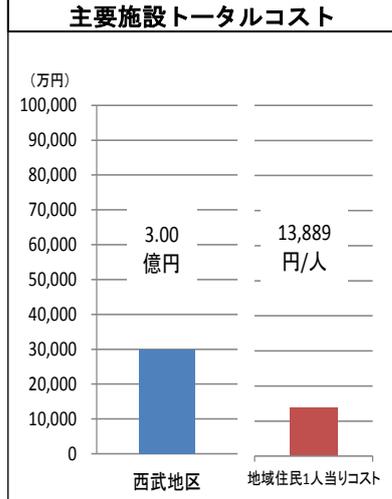
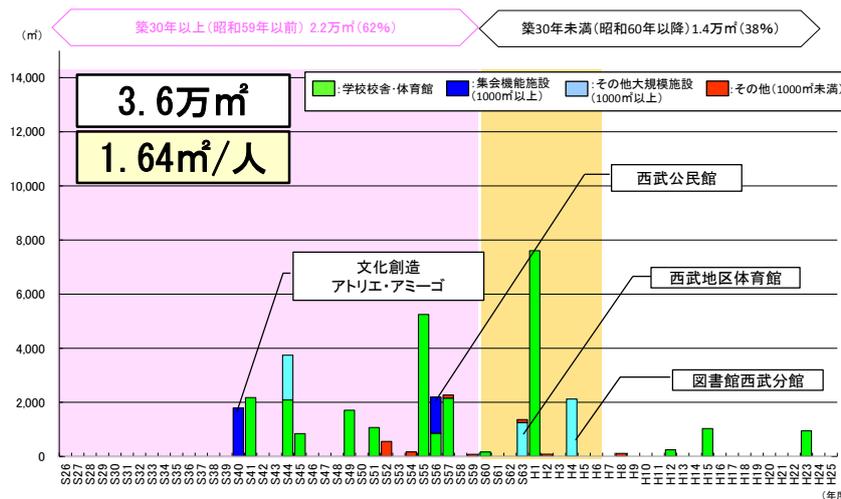


凡例：■築20年以上経過した施設 ■築30年以上経過した施設 ■築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	利用状況		コスト状況 トータルコスト(万円)	パフォーマンス把握指標		
						稼働率	利用者数(人)		利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数
広域	文化施設	文化創造アトリエ・アミーゴ	不明	不明	1,797	47%	35,814	4,341	1,212	100	0.5回
地区	図書館	図書館西武分館	平成4年	22	2,120		68,852	7,234	1,051	232	6.4回
	庁舎等(行政窓口)	西武支所	昭和56年	33	99						
	屋内スポーツ施設	西武地区体育館	昭和63年	26	1,259		33,550	1,948	581	94	3.1回
	公民館	西武公民館	昭和56年	33	1,241	30%	44,433	4,229	952	149	4.1回
	老人憩いの家	西武清寿会老人憩いの家	昭和59年	30	76		2,245	53	236	6	0.2回
		新光はなみずき会老人憩いの家	昭和63年	26	102		5,365	6	11	15	0.5回
		仏子しろがね友の会老人憩いの家	平成2年	24	84		787	3	38	2	0.1回
		西武明寿会老人憩いの家	昭和57年	32	113		1,261	5	40	4	0.1回
学童保育室	西武学童保育室	昭和54年	35	171	104%	73	1,084	148,493			
	仏子学童保育室	平成8年	18	113	84%	42	891	212,143			

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数生徒数(人)	学級数
							通常学級
地区	小学校	西武小学校	昭和41年	48	5,970	742	24
		仏子小学校	昭和55年	34	6,271	318	12
	中学校	西武中学校	昭和44年	45	6,371	189	8
		野田中学校	平成元年	25	7,603	377	12

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m <sup>2</sup> )	児童数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況	
									トータルコスト(万円)	園児1人当たりコスト(円/人)
地区	保育所	西武中央保育所	昭和52年	37	556	104	90	116%	10,243	984,904



■現状と課題

<人口動向変化からの課題>

市内でも今後20年間の高齢者人口の増加率が2番目に高く、生産年齢人口や年少人口は約20%弱の減少予測となっています。

地区内2校の小学校では直近10年間(H16~H26)で、西武小は37人、仏子小は191人減少と減少数に大幅な差が生じており同じ地区内でも減少のしかたが異なります。

<施設配置状況、保有機能>

広域集会施設の文化創造アトリエ・アミーゴや図書館西武分館、西武公民館が整備されており、いずれの施設も集会機能を保有しています。西武公民館の稼働率が30%と低くなっていることから、同地区内で機能の重複が考えられます。

主な施設である16施設のうち、9施設が築30年以上経過し、老朽化が進行しており、今後の更新時には、施設数と保有機能のバランスを考慮した整備方針が必要です。

<施設保全からの課題>

地区内の施設のうち、大規模な施設は学校施設で、他地区と同様に築30年を超えています。文化創造アトリエ・アミーゴは築60年以上を経過しており、平成12年に大規模修繕を実施しました。稼働率は、47%となっており、今後の利用向上を図る上でも周辺の類似機能を保有する施設との集約化・複合化等を検討し、地区内の施設全体で、費用を抑えた効率的な整備を推進していく必要があります。